

⑤ 佐々木一芳 編

『アメリカ生活小六法 総合版』

(アイ・エル・エス出版)

アメリカでの生活は、当然ながら日本とは違う点が多々あります。しかしその実情は、日本に居るとなかなか判りづらいものです。本書は法律に関わる事柄は勿論、「アメリカ式結婚のお祝いの差し上げ方」のようなものまで取り上げられています。「アメリカの生活に役立つホームページ」というコラムも便利です。留学を目指している人だけでなく、アメリカに興味のある人全般におススメします。

322.953-Amer (T.F.)

⑦ 百瀬満 著

『ドイツの生活空間と文化を楽しむ』

(明窓出版)

近年、様々な面においてアメリカが主流となっている日本では、ドイツという国についての情報は意外に少なく、また多くの誤解もあるようです。

本書は、アメリカ文化や社会とは対極的な側面を持つこの国のユニークな文化や生活について、筆者のドイツでの生活経験も交えて詳しく書かれています。「文化大国ドイツ」を支えるドイツ社会とは？そしてドイツ人気質とは？私たちの生活に一石を投じるような多くの発見や驚きが隠された1冊です。

302.34-Mom (H.T.)



⑥ 湯浅浩史 著

『植物ごよみ』

(朝日新聞社)

今から1200年前の『万葉集』には160種余りの植物が歌われていますが、近代以前に多数の植物が記録された例は世界的にも類を見ないそうです。日本にはありがたいことに四季があるため、四季折々を草花で感じることができたからではないでしょうか。

本書には1月から12月に咲く花約70種類の名前の由来や最新の利用法などが幅広く紹介されています。自然破壊が進む現代社会の中で、私達がなくしかけている日本の心と呼び起こしてくれる一冊です。

470.4-Yua (N.K.)

⑧ プレヒト 著 岩淵達治 訳

『肝っ玉おっ母とその子どもたち』

(岩波書店)

劇作家と言えばシェークスピアですが、プレヒトもまた忘れてはならない一人です。本書を開けてまず目を惹かれるのは、物語の展開が殆ど台詞で進められている点と、舞台が戦場でありながらも、肝っ玉おっ母をはじめ、登場人物の台詞から戦場の緊張感、悲惨さが全くと言っていいほど感じられない点です。詰まるところ、コメディに近いのですが、その裏で戦争のもたらす悲惨を鋭く突いているのが、本書の面白さでもあり、意外さでもあります。プレヒトの世界に触れてみたい方は、是非ご一読を。

942-Bre (H.I.)